

会議名	第54回板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会
開催日時	令和元年9月10日（火）午後2時00分～4時00分
開催場所	板橋区役所南館4階災害対策室
出席者	<p>[委員 17名]（敬称略）</p> <p>八藤後会長、水村会長代理、桑波田委員、佐々木委員、曾輪委員、野原委員、パトリシア委員、早坂委員、山口委員、吉田委員、大場委員、加藤委員、竹澤委員、湊委員、草深委員、原田委員、辻委員</p> <p>（欠席1名）</p> <p>[事務局 6名]</p> <p>（福祉部）榎木福祉部長、小島障がい者福祉課長、ユニバーサルデザイン推進係3名</p> <p>（都市整備部）内池都市計画課長</p>
会議の公開（傍聴）	公開（傍聴できる）
傍聴者数	2名
次第	<p>1 開会</p> <p>2 委員紹介等</p> <p>3 審議・報告事項</p> <p>（1）板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025 平成30年度実績報告について</p> <p>（2）令和元年度ユニバーサルデザインに関する職員アンケート調査について</p> <p>（3）板橋区手話言語条例の制定について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
配布資料	<p>資料1 板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025 平成30年度実績報告</p> <p>資料2-1 ユニバーサルデザインに関する職員アンケート調査について</p> <p>資料2-2 令和元年度ユニバーサルデザインに関する職員アンケート（案）</p> <p>資料3 板橋区手話言語条例の制定について</p> <p>参考資料 平成30年度ユニバーサルデザインに関する職員アンケート調査結果について</p> <p>その他 バリアフリーマップ（イメージ図）</p>

<p>審議状況</p>	<p>1 開会</p> <p>(事務局)</p> <p>定刻になりましたので、ただいまから第54回板橋区ユニバーサルデザイン推進協議会を始めさせていただきます。</p> <p>開会に際しまして、会長から一言ご挨拶をお願いいたします。</p> <p>(会長)</p> <p>皆様、本日はお集りいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>台風が過ぎると秋らしくなってくるはずですが、外れてしまいました。皆様、お加減いかがでしょうか。本日も大事な会議でございますので、どうか協力をよろしくをお願いいたします。</p> <p>本日の議題は、主に平成30年度の実績報告などもあるということでございますので、ご審議のほどよろしくをお願いいたします。</p> <p>(事務局)</p> <p>本日は堀井委員からご欠席とのご連絡をいただいております。</p> <p>また、2名の方が傍聴を希望しておられますので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>2 委員紹介等</p> <p>(事務局)</p> <p>区内団体からご推薦いただいております委員につきまして、委員の交代がございました。今回、新たに着任されました委員をご紹介します。</p> <p>板橋区老人クラブ連合会副会長、早坂憩子委員でございます。</p> <p>板橋区ママコミュニティママスマイル副代表、山口寛子委員でございます。</p> <p>板橋区商店街連合会副会長、吉田和雄委員でございます。</p> <p>よろしくをお願いいたします。</p> <p>ここからの審議の進行は会長にお願いしたいと思います。</p> <p>3 審議・報告事項</p>
--------------------	--

**(1) 板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025 平成30年度実績報告
について**

(事務局から、資料1について説明)

(委員)

こちらに掲載されている事業について、こういった評価をしているのかを
教えていただきたいと思っております。

特に、ユニバーサルデザインチェック（以下「UDチェック」）や公共施
設などのユニバーサルデザイン化を行う際に、やりましたというだけでは
なく、実際何ができたのか、あるいはできなかったのかというところも含
めて教えていただければありがたいです。

もう一点ありまして、「55 内方線付き点状ブロック整備支援」につい
て。内方線付きの点状ブロックが整備されたため、事業は終了したという
報告が書いてあります。しかし、内方線を設置しただけでは安全を確保し
たとは言えません。これからはホームドアの設置を含めて検討いただけれ
ばと思います。

(事務局)

まず1点目のUDチェックに関しましては、基本計画・基本設計・実施設
計・竣工後の各段階で実施すると定められております。そのため、最終的
には竣工後に評価する段階で、協議会へお示しさせていただければと考
えております。

次に内方線付き点状ブロックの件でございます。こちらは、平成29年度に
東武東上線中板橋駅におきまして整備されたことをもちまして完了とさせ
ていただいております。しかしながら、安全面の配慮等の観点から内方線
ブロックの設置だけで全てが賄えるわけではございませんので、今回ご提
案いただきましたホームドアの件につきましても、今後進めてまいりたい
と考えております。

(委員)

先ほど委員からUDチェックの実施の際に、どんな評価が行われたのか確
認してもらいたいという話がありましたけれども、それに付随した意見で
す。

ユニバーサルデザインガイドライン（以下「UDガイドライン」）の作成に当たっては、これまで議論しながら完成させて配布が進んでいるということですが、いずれ改定する機会もあろうかと思えます。また作成に当たっては、改定しやすいような形で運用されているといった話も伺ってありました。

実際にUDチェックが実施される、あるいは施設のユニバーサルデザイン化が推進される中で、今あるUDガイドラインに照らし合わせながら問題ないか見直す、あるいはつけ加えていくことも考えながら、評価を積み上げていく必要があるのではないのでしょうか。資料には区営住宅の実績が記載されておりますが、実際の住宅についてもUDガイドラインの中で想定されているのか気になるところです。

（事務局）

チェックに関する基準等につきましては、特段ガイドラインで定めていないところでございます。しかしながら、こういった視点で評価をしたのかに関しましては、見える化する必要があると感じております。その点、区営住宅をはじめとして、様々な公共施設がございますが、「59 ユニバーサルデザインアドバイザー（以下「UDアドバイザー）」へご意見を賜りながら、確認させていただいているところでございます。いずれにしましても、一定の「見える化」をしませんと、皆様にも伝わりにくい部分もございますので、今後検討させていただければと思っております。

またUDガイドラインにつきましては、常に改善していく「スパイラルアップ」の考え方を取り入れてございます。そういった観点からも、改定の際にはご提案いただきました部分を取り入れた形で進めてまいりたいと考えております。

（委員）

施設整備における事業をみると、どれも「ユニバーサルデザインの考えに基づいた整備を進めます」といった記載があります。その中で、アドバイザーの意見だけではなく、ぜひ当事者による意見や検証なども含めて行っていただきたいと思っております。UDアドバイザーの意見が全てとしてしまうのは違うと思っておりますので、ぜひ当事者の方の検証という視点を、評

価の段階で入れていただきたいです。

(事務局)

ご提案いただきましたとおり、当事者、あるいは実際に使われる方がどう思われるかといった視点も重要でありますので、方法につきましては今後研究させていただきたいと考えてございます。

(会長)

これは私からもお願いしたいと思います。他区でもそういった評価システムが仕組みとして組まれておりますので、参考にしていただければと思います。

(委員)

「01 UDガイドライン等の検討・作成」の実績に2,000部を配布したとありますが、どういったところに配布し周知を図られたかを教えていただけますか。

(事務局)

普及啓発冊子の配布2,000部につきましては、「まちの中で気づくかな？」を該当としたものでございます。平成29年度に2,000部を印刷したところ、非常に反響ございました。そのため平成30年度に1万部の増刷を行い、さらなる普及啓発を図っているところでございます。

平成29年度の主な配布先といたしましては、区内中学校、中央図書館、庁舎受付窓口、区内企業団体、イベントなどで配布させていただいております。あわせて、小学校を対象に行っております「障がい者理解促進事業」におきましても、昨年度5校で配布したところでございます。

(委員)

「まちのなかで気づくかな？」についての意見です。私には幼稚園の娘がおりまして、これを見せたら楽しみながら困っている人を見つけられ、すごく気に入ってくれました。

先ほど小・中学校への配布実績があるとおっしゃられていましたが、今後は幼稚園や児童館など、もう少し年齢が低い子どもたち、あるいは親子が集まるようなところでも配布していただけたら、すごくいいと思いましたので、よろしく願います。

(事務局)

「まちのなかで気づくかな？」につきましては、お子様でも理解できるように、小学校4年生以上で習う漢字につきましては、ルビを振っているところでございます。

今回ご意見をいただきました幼稚園などもう少し小さいお子さんでも楽しんでいただけたというのは、非常にうれしいところでございます。先ほど申し上げました「障がい者理解促進事業」で小・中学校に配布していくことを予定しているところでございますが、子どものころからUDを学んでいくことは非常に重要なことであると感じておりますので、具体的な配布先等ございましたら、対応してまいります。

(会長)

「04 ユニバーサルデザイン研修の実施」平成30年度実績の中に、技術職員対象研修29人とあります。技術職員というのは、どういう人たちなのでしょうか。

(事務局)

技術職員は、「建築技術職」を対象としたものです。平成31年1月に建設が行われました小豆沢体育館プール棟を用いまして、研修を実施したところでございます。

(委員)

「80 板橋区ユニバーサルデザイン賞（以下「UD賞」）の検討・実施」の実績についてです。今回募集だけで表彰はないとされておりますが、この事業が今後どのような形でやっていくのか教えていただけますか。またどんなものが選ばれて表彰されたのかを知りたいのですが、今後も行われるのでしょうか。表彰された際には、どんな製品が選ばれたか、写真でも構わないので示していただけたらうれしいです。

(事務局)

こちらはユニバーサルデザインに関係する製品の応募があったところでございますが、他の賞として表彰されたため、平成30年度にUD賞として表彰された製品はございませんでした。

しかしながら、ユニバーサルデザインに関する製品の応募はいただい

るところでございますので、今後所管課と調整させていただき、UD賞をきちんと位置づけたうえで選ばれるような仕組みを検討します。また受賞した暁には、協議会等の場面を通じてお示しさせていただきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(2) ユニバーサルデザインに関する職員アンケート調査について

(事務局から、資料2-1・資料2-2について説明)

(委員)

質問です。問7で多様な人への接遇ができているといった設問がありますが、その接遇ができていないと答えている方を想像できません。仮にそういった回答があった場合、このアンケートだけで終わらせてしまうと困りますので、接遇ができていないと答えた方に対して何かしらの対応策をとっていただけるとありがたいと思います。例えば、対応していないと回答した方へ何かしらの対応ができるような形に持っていくアンケートの使い方ができればと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局)

まず多様な人というところでございますが、これは障がい者、高齢者、子ども連れ、外国人などといったところを例記させていただいてございまして、こちらに関して何か対応したことや配慮したことがあるかということをお問うているものでございます。

昨年度の調査結果でわかったことですが、特に保育士については自身がユニバーサルデザインに配慮していることに気づいていない回答をしている傾向がございました。通常業務を考えますと、子どもたちの行動をおもんばかってユニバーサルデザインに対する対応をしていると思います。しかしながら、ユニバーサルデザインに関して理解していない状況が調査を通じてわかったところでございますので、今回は問7の設問にあわせまして、さまざま職種や年齢層などをクロス集計したうえでユニバーサルデザインの認知度が低い対象を抽出したいと考えているところでございます。そのうえで、次回のアクションを検討してまいりたいと考えております。

なお、保育園職場に対する理解が進んでいない実態が昨年度の調査でわかりましたので、今年度は保育士向けの研修を予定しています。

(委員)

そういうことで対応していただければ、ありがたいと思います。ぜひ、アンケートだけの結果だけで終わらせてほしくないのも、その後の施策に生かしていただければありがたいです。

(会長)

多様な人（障がい者、高齢者、子ども連れ、外国人など）というのが限定されるから、例えば部署によっては、そういう人は対応しないと思った方もいらっしゃるのではないのかと思います。しかしながら、例年やっているアンケートなので、定点観測をする意味でもあまり変えないほうがいいと感じております。

(委員)

UDガイドラインを読んだことがあるということが前提で進んでいきます。しかし、この回答の中でガイドラインを読んだことはあるけれども、生かすまでには至らなかったケースの場合は選択肢として選びづらいと感じます。

次に問11に関する事です。ユニバーサルデザインに関する取り組みのうち、知っている事業はどれですかという問いに対して、「知らない・わからない」という記載に違和感があります。「知らない・わからない」というところは、毎年30%近くの方が回答されていますので、ここの部分は何らかの形で据え置いたほうがいいとは思いますが、知っている事業はどれですかという問いかけに対する選択肢の置き方を再考する必要がある気がします。

あわせて「(5)UDニュース」といった表現に関して。ほかの部分では「ユニバーサルデザイン」とされている一方で、ここだけ略称で表記されています。仮にUDニュースという呼称が職員の方に普及されていればこの表記でも問題ありませんが、その点が気になったところです。

(事務局)

まず問10に関しまして。読んだことはあるけれども、生かしたことはない

という選択肢を選ばれる可能性もあると感じますので、こちらの選択肢につきましては、今のご意見も踏まえて検討させていただきます。

次に「知らない・わからない」という選択肢でございますが、この「知らない・わからない」を選んでいる理由もある程度問うようなことをしないと、改善につながっていかないと思うところでございます。調査は基本的にパソコンによる回答としているところでございます。事業を見たことがない・知らないと回答した職員に対しては、回答欄にガイドライン等のリンクを張り、アンケートと一緒に見られるよう工夫してまいります。また、保育園職場など紙ベースでアンケート調査を行う部署については、ガイドラインの冊子もあわせて配布するなど、少しでも読んでいただけるような工夫行ってまいります。

また「UDニュース」という表現について。こちらは固有名詞として使わせていただいております。職員にもある程度認識されているためこのような表現にさせていただきます。

(委員)

問10の設問を分析すると、「知ったこと」と「活用した・役立てた」という2つのことが聞かれているためわかりにくいのではないのでしょうか。

例えば問10の中で、ガイドラインを読んで何を知れたのかをまず聞き、その上で知ったことのうち実際に業務の中で役立てたこと、あるいは活用できたことについて、別に回答していただくという2段階方式にするとわかりやすいのではないのでしょうか。

また、全体的に設問内容と選択肢が長過ぎていることもわかりづらい要因の一つかと思っておりますので、もう少し選択肢を短くすると回答しやすいと思います。

(事務局)

わかりやすくするために設問数を増やすことは可能であると考えます。回答する側がわからないまま選んでしまうと、調査の意味もなくなってしまいますので、選択肢を増やすことも視野に入れて検討させていただきます。

また、設問の内容が長過ぎることに関しては、対応できる工夫を行ってま

います。

(委員)

以前対象を広げてくださると伝えたと、全職員にさせていただいてありがとうございました。今後どのような結果が違ってくるかを、見られれば良いと思っています。

まず問4につきまして。この4つの選択肢とした理由をお聞きしたいです。ユニバーサルデザインに関する調査というところでは、内閣府や東京都などでも実施しております。一方こちらの選択肢は、特に「具体的な事例まで知っている」が入っていることが特徴になっています。この選択肢とあわせることで、他の設問と比較できる利点はあります。一方、具体的なユニバーサルデザインの事例が、スパイラルアップの観点から変動するものなので、「これがユニバーサルデザインの事例だ」と一概には言えないのではないのでしょうか。経年比較するためはこの選択肢で良いと思いますが、今後を見据えて内閣府や他自治体と比較できる形に揃えた方が良いと感じました。

2点目が「ユニバーサルデザインについて知っていましたか」という設問について。職員の方々は公共の福祉という観点でお仕事をされていますので、ユニバーサルデザインの習熟度がどこまで重要なかがよくわかりません。そういった意味では、ユニバーサルデザインという言葉が知らなくても、似たような言葉の「共生社会」や「インクルーシブ社会」の実現に向けて、今何が困っているのか、あるいはどうしたらより業務の中で進みやすくなるのかといった課題整理や課題の把握をすることを、調査として入れていただければ、今後につながりやすいと思います。

3点目が問7に関しまして。ここにつきましては、「ある」「ない」で問うこと自体が疑問でして、職員の皆さん多分あるとは思いますが。ここで聞かなければいけないことは、頻度であると考えておまして、例えば参加しやすいイベントや多様な人に対するの接遇に対して、常に配慮しているのか。あるいは1回はやったことがあるのか。その辺の整理はしたほうが良いと思います。

4点目が「特に配慮したことがない」というところが、配慮をしなければ

いけない人を知らなかったという人と、配慮を意識せずともできている方の2パターンの方が回答する気がしています。こういう方々をどう振り分けるのかが疑問です。

5点目が、全体的にできた・できない、あるいはやりました・できましたという選択肢が多い印象です。例えばどのような配慮をすればわからないと回答した方でも、選択肢で想定した接遇ができているのに自信がないから…と謙遜して回答してしまう人もいるのではないのでしょうか。そのため、困り事や今後の課題については、ぜひどこかで入れていただきたいと感じます。

最後にアンケートの目にあるユニバーサルデザインの取り組みが職員に与えた影響などを把握するということが前提にあるならば、例えばユニバーサルデザイン研修を受けた部門別で見る、あるいは入庁歴もクロス集計する際には参考になると思います。

(事務局)

まず、問4の部分でございます。こちらの選択肢につきましては、「区民意識意向調査」を2年に1回やっております、そちらでも今回の問4と同様の設問を設定しております。区民意識意向調査では、区民のユニバーサルデザインに対する認知度を測る目的があります。他方、今回の職員アンケートでは、職員の認知度を測る目的がそれぞれございますので、同様の設問とさせていただきます。そのため、一方の設問を変えることは難しい状況でございますので、今後区民意識意向調査と足並みをそろえて、修正等検討させていただきたいと思っております。

続きまして課題整理や課題の把握について。こちらは問12へ記載いただけるよう、自由記述という形で設定させていただきます。

3点目が頻度のお話でございます。確かにどのくらいやったかに関しましても、今後の課題解決に向けて必要な要素であると感じております。一方、ユニバーサルデザインの認知度をきちんと上げることを第一の目標としておりますので、まずはできたかどうかを確認したいと考えております。そのため、今後認知度に関する数値が上がってきた段階で、頻度等を問うような設問を入れる等を検討させていただきます。

4点目は問7「特に配慮したことがない」の選択肢を選んでいただいた方の振り分けについてです。こちらは問8に進んでいただきつつ、意識せずともできていることにつきましては、(2) その他(具体的に)で記載をしていただきたいと考えております。

5点目が問8の選択肢についてです。確かに2つしかないと選びにくいかと感じますので、いただいたご意見を参考に選択肢を検討します。

最後に属性に関するご提案についてです。ご提案のとおり、入庁歴等を基本属性に追加するとクロス集計した際の課題等が見える部分もあります。

一方で、設問数を増やしすぎると回答数が伸びない課題もございますので、一定の精査が必要です。全部で10問前後とすればある程度の回答率が見込めるかと思っておりますので、この項目につきましては今後の検討事項とさせていただきます。

(会長)

全体的にこういうものができたかどうかで丸をつけさせるということは大雑把ではないかという意見に関しまして、これは私の意見になりますが、今まで積み重ねてきたアンケートのデータと比較することも重視されていましたが、数年間で情勢も変わってきておりますので、次回以降の機会に本日の意見なども参考として大幅に改定することも選択肢に入れてはいかがでしょうか。

(委員)

アンケートの設問数で回答率が変わるの承知しておりますので、今後よりよいアンケートにしていだけたらと思います。

追加の提案ですが、問8に関しまして。こちらは選択肢が2つしかなく、ここを膨らませておくと特に配慮していない理由もよくわかるのかなと。例えば、どのような配慮をしていいかわからない、あるいは実際に区民などと接する機会がないといった選択肢も考えられます。自由記述をされない方もかなりいるので、選択肢を設けておいたほうがよいのではないではないでしょうか。

(事務局)

アンケートの中身については、経年で追う意図がございます。一方、今後

は見直しも考えたほうがよいといったお話を頂戴しました。来年度にはユニバーサルデザイン推進計画の後期計画を策定してまいりますので、このタイミングに合わせてアンケート内容の見直しも行ってまいりたいと考えております。

(委員)

問4についてのご意見です。どの程度知っていましたかと書いてありながら、下に※でユニバーサルデザインの説明が書いてあると違和感があります。本日お配りいただいている参考資料を見ますと、前々回で知らない人が9.4%、前は4.0%とかなり減ってきておりますので、※による説明はやめてしまってもいいのでしょうか。

そのうえで、どのように認識しているかといった視点も興味深いと思いますので、ユニバーサルデザインをどのように理解していますかとし、フリーアンサーでそれぞれのユニバーサルデザインの認識について書いていただくとういのではないのでしょうか。

このような設問ですと、定量的には扱えないですが、認識によっても後半の回答の生かし方も考えられると思います。それぞれの解釈を聞いてみるというのも、アンケートを進化させる手段の一つとしてご検討いただければと思います。

(事務局)

ご提案のとおり、ユニバーサルデザインの認知度が上がるにつれて、いつまでもこの定義を理解していないままだと「認知度」として説明できません。先ほど申しあげましたアンケートの中身を見直すタイミング等今後の検討事項とさせていただきたいと考えております。

またユニバーサルデザインの認識を自由記述していただくご提案に関しまして、設問数が増えている現状もありハードルが上がる懸念もありますので、今後の調査の際に検討させていただきます。

(委員)

自分たちがやったことを根拠づけるための調査となってしまうと、もともとあるユニバーサルデザインの推進とは違ってくると思いますので、経年変化を把握すると同時に、何のための調査なのかを検討する必要があると

思います。

(委員)

アンケート全体についてのお話です。何のためのアンケートかというところで、1つは障がい者福祉課の実績について、これだけ認知度が上がっているということを確認するというのも大切だと思います。しかしながら、ユニバーサルデザインの推進も段階が大分変わってきていまして、具体的な課題の把握など、スパイラルアップのための情報としてアンケートを生かす要素もあると思います。

全体として、それらを同時に聞く設問がある印象です。そのため、実績を確認するためのアンケートと、スパイラルアップするために補っていく目的の設問とを明確にしたほうが、回答する方も意図がわかりやすい気がします。

(事務局)

平成29年度に計画を策定し、まずは認知度を上げていく取り組みを進めてきたところでございます。段階を進めるところ、具体的には計画改定のタイミングで、見直しに向けて取り組んでまいります。

(委員)

参考資料・平成30年度の調査結果について見ると、回答数が1,148件とありますが、こちらは何人に出して回答数がこの数かわかりますか。

(事務局)

昨年度につきましては、3,400人が対象で、そのうち1,148件の回答をいただいたところです。今回は管理職へ範囲を広げておりますので、対象が3,500人と増えています。

(委員)

3,400人のうち1,148件回答数があったという話ですが、半数も答えていないのですね。以前、特別支援学校のPTAをやっていた時に、保護者や当事者向けのアンケート作成した際、回収率が1割～2割のときがありました。その際、本来の意味を考えて、最終的に8割を目標とし、実現したときには実りのあるアンケートとなりました。そういったことがありましたので、このアンケートを回答した方は、何となくユニバーサルデザイン

を知っている人が答えたのではないのでしょうか。多くの人はもしかしたらユニバーサルデザインを知らないから、アンケートに答えなくていいやとなったのかもしれない。あるいは回収率アップのために二度三度声かけをしているかもしれませんが、もう少し回収率アップのために、工夫する必要があると思います。その中で、回収率を何割以上にするという目標があればいいと思いますが、いかがでしょうか。

また、アンケートにもありますUDガイドラインは、対象の3,500人には配っているのでしょうか。

(会長)

追加質問です。職員向けアンケートを、様々な部署が実施していると思いますが、他と比べて高いか低いかはわかりますか。

(事務局)

先に回収率の高さについて回答します。区では様々な職員向けアンケートを行っていますが、本アンケートの回答率が一番高くなっております。

そういった中で、回収率を高める工夫の一つとして、職員向けサイト等を使い、複数回アンケートの件を周知する、あるいは先ほど説明しました職員向けニュース等を通じての周知に取り組んでいるところでございます。目標は現時点ではありませんが、少しでも回答数が増やせるよう引き続き工夫してまいります。

次にUDガイドラインの配布についてです。紙を削減する観点から、職員サイトによる閲覧可能な体制としております。

(委員)

忙しい中で自らウェブを閲覧するのは難しいと思います。他に何か見てもらえる工夫ができたらいいと感じます。

(会長)

私の感想ですが、職員向けのアンケートとしての回収率は、異常に低いと思います。

例えば私の勤務先では、その資料をクリックして見たかどうかというのがわかるような仕組みになっております。しかしクリックだけして見ない人もいるのですが、後からどんな内容だったのかを5択で聞いてくるという

のもありまして、それほどしないと回答もしないのでしょうか。

(委員)

100%ぐらいの回答率と思ったら5割程度で驚きました。アンケートのやり方は、パソコンで回答するといったお話でしたが、例えば事務職系の職場では朝にメールチェックをしますよね。そういうところで周知してはいかがでしょうか。アンケート調査を送るタイミングも考えていただきつつ、回答しやすいフォローも考えていただく。最低でも8割ぐらいはいつてほしいなと思います。ぜひこの辺の改善策を実施していただきたいなと思っております。その中で、前回まではどういったタイミングで送っているかを教えていただけますでしょうか。

(事務局)

アンケートにつきましては、個人宛てのメールアドレスへお送りしております。基本的にはメールチェックを各個人がする中で、気づいていただけるタイミングになっていると思っています。

他方、UDニュースにつきましてはお昼休憩前に配信し、休み時間中に見てもえるようタイミングを見計らって送っています。この視点も踏まえつつ、さらなる認知度向上に向けて工夫してまいります。

(委員)

参考資料8ページ、「UDガイドラインを読んだことがあるか」についてみると、福祉職が15.5%と一番低いです。これを増やすための方法はあるのでしょうか。

(事務局)

福祉職につきましては、保育士が多数を占めている状況です。前回の調査で保育士の認知度が特に低いことがわかりましたので、保育士向けの研修等で認知度の向上及びガイドラインの周知を図ってまいります。

(委員)

福祉部の部署、例えば福祉事務所や障がい者福祉課の職員はどこの分類に入るのでしょうか。

(事務局)

福祉部の職員につきましては、事務職であれば事務の分類に入ります。福祉

職となると、福祉の分類に入っております。区では、職場によって様々な職種で構成しておりますので、福祉部の職員が一概に福祉職であるというわけではございません。

(会長)

質問となりますが、福祉という職種の中には保育士がどの程度占めているのでしょうか。

(事務局)

福祉職に占める保育士の割合は、7割～8割ぐらいとなっております。

(3) 板橋区手話言語条例の制定について

(事務局から、資料3について説明)

4 その他

(事務局)

本日の議題は以上ですが、本日は野原委員より情報提供がございます。

(委員)

今回はユニバーサルデザインフォント（以下「UDフォント」）について情報提供をさせていただきます。ついては、事務局へ東京都の広報誌を用意していただきましたのでご覧ください。

UDフォントを一言でいうと、読みやすい字ということです。東京都の広報では細かく黒い文字の文章がUDフォントを採用しています。UDフォントは様々なフォントメーカーが作成していますが、どれも高齢者や弱視の方が見やすいものをつくっております。また、学習障がいと言われる「ディスレクシア」という障がいがある方にとっても、見やすい字になっています。

例えば、「ば」と「ば」の濁点が、はっきりと大きくなって見やすいです、また「さ」「き」「な」という文字が、明朝体だと続いて書かれていますが、UDフォント1画ずつきちんと離してあって見やすく、外国人にも読みやすいと言われております。

また線の太さが均一なことも特徴の一つです。明朝体ですと太いところと

細いところがあり、特に学習障がいの子はそこが見づらく、太さが均一な明朝体よりもゴシック体のほうが見やすいとされています。

私自身も老眼が進んでいて、スマホの文字も眼鏡なしでは読めず、例えば8と6の区別がしづらいです。しかしUDフォントだと6のスタート地点が広くとってありわかりやすいです。あるいは3の字も、スタート地点が上からスタートしていて、幅がとってありわかりやすいです。また「ぱ」と「ば」の違いもすごくわかりやすくなっています。

東京都の広報紙担当の方へ問い合わせてみましたら、東京都の広報誌は「モリサワ」というメーカーのUDフォントで、A-O-T-Fというものを使っているそうです。他にも、2020年度から学校の教科書に採用されたり、品川区の防災地図やハンドブックに使われたりするそうです。また、一般製品やバスの案内表示などでも採用されており、まちなかでも多く使われています。

区の広報は明朝体を採用しており、レイアウト的に見やすくはなっています。もしUDフォントにしていただけると、学習障がいのある方や老眼の方などでも見やすいと思いましたので、情報提供として提案させていただきます。

(会長)

これは区がフォントを持つというよりは、印刷物外注先の事業者等への働きかけということになるかと思いますが、事務局である障がい福祉課で働きかけは、可能でしょうか。

(事務局)

区の広報紙に関しましては、広聴広報課で担当しておりまして、伝えやすさ・わかりやすさを日々検討しながら、紙面構成等をしているところでございます。

UDフォントの活用につきましては、協議会でこういったご意見がありましたということ所管課へ伝えさせていただきます。

(委員)

広報に関する提案です。広報誌へローマ字を入れる、あるいはちょっと英語表記を使用することは可能でしょうか。例えば、タイトルだけでも構い

ませんので、英語表記を入れていただくと、外国人にとっても見やすいと思います。

また、先ほど配られておりましたバリアフリーマップについてです。公共施設や官公署などの区分をあらわすピクトグラムがありますが、外国にはこのようなマークがなく、何をあらわしているのかわかりません。英語版でつくっていただく、あるいはローマ字での表記をしていただけるといいと思います。

(会長)

1点質問があります。タイトルだけわかって中身がわからないことになりませんが、効果があるものなのでしょうか。

(委員)

タイトルさえもわからないと何が書いてあることなのかさえもわかりません。例えばイベントと書いてあれば、これはイベントのことだと思って、努力をしながらでも読んでみたい気になります。漢字ばかりで書いてあると、嫌になってしまいます。あとは住所が書いてありますので、ここへ行かないといけないのかなと思ってしまっただけ終わってしまいます。タイトルが英語表記になっていれば、外国人にも案内されている情報が伝わるので助かります。

(会長)

今後の広報紙だけではなく、資料作成において重要かつ、比較的すぐにもできるご意見をいただいたと思います。決して少なくない外国の言語を使う方に対するサービスとして、ご検討いただければいいと思います。

(事務局)

まず広報紙の件についてです。先ほどのUDフォントと同様に、担当所管へ伝えさせていただきます。

また、バリアフリーマップにつきましては、当課で所掌しているものでございます。例えば、左側の凡例へ英語表記を入れるなどの対応が可能か、事業者等と検討させていただきます。

(委員)

特に自然災害があったとき、避難所等の案内役をしているのですが、どう

	<p>いう示し方をすればいいかもわかりませんので、英語表記を推進していただければと思います。</p> <p>(事務局)</p> <p>委員の皆様、ご審議誠にありがとうございました。</p> <p>次回の協議会については、令和2年1月16日(木)を予定しております。開催日が近くなりましたらご連絡を差し上げます。</p> <p>最後になりますが、本日の協議会についてご意見等がありましたら事務局までお寄せいただければ幸いです。</p> <p>(会長)</p> <p>ありがとうございました。ほかにないようでしたら、これで閉会といたします。長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。</p> <p>5 閉会</p>
<p>所管課</p>	<p>福祉部障がい者福祉課ユニバーサルデザイン推進係</p> <p>(電話：3579-2252)</p>